



校長室だより

R6.10.17. 号

岐阜市立東長良中学校

後期終業式

皆さん、おはようございます。今日、こうして皆さんに会えること、お話しできることをとてもうれしく思います。前期の終業式で「自分で決めて、自分で行動することができるようになる」こと、そのためにマスクの着用についての話をしました。本当に大切なことを自分で判断して行動する力、そんな力をつける後期、そして、自分をさらけ出し、心を許せる。そんな仲間とかけがえのない経験をする後期にしましょう。

もうひとつ話をします。令和元年の悲しい出来事をうけて、東長良中学校では、一人一人の居場所と幸せを大切に活動に取り組んできました。そのおかげで、とても雰囲気良く、居心地の良い学校になってきたと思います。本校を訪れるいろいろな方たちから、「先生や生徒の表情が柔らかく、明るくのびのびと良い雰囲気ですね。」と言っていただけます。協・優・敬・恕の心を育む HERO プロジェクトや小集団学習の成果だと感じています。

そんな学校にしていくために、実は先生たちは校風を変えようとしてきました。以前は、決まり(規則)や約束が細かく、厳しい学校でした。そして、より高い価値へと競い合いながら取り組んでいく校風でした。それを少しだけ緩くして、居心地がよくなるようにしてきました。たとえば服装です。かつては、登下校や授業は制服着用でした。そして、第1ボタンまで留めたり、リボンを着用していました。(先生たちのネクタイも同様)。防寒具は色指定で、中の着用のみを認めていましたが、今は色は何でもいいですし、上からの着用も OK です。机の上やロッカーも定規で計って整頓していようです。大切なことは中学校として大切にすることはなにか、やるべきことができるか、一人一人の居場所と幸せを大切にしているかということです。

ただし、皆さんの中からこんな声が聞こえてきます。「校則をもっとはっきりしてほしい。あいまいなところがあってわかりにくい。」「守っている人と守っていない人がいる。まじめに守っている人が不公平ではないか」。たしかに言う通りです。では、もっとわかりやすいように、細かく規則を決めればよいのでしょうか。ただ、どんなに細かく規則を決めても、守らない人は守りません。そこは人がどうこうではなくて、自分自身がその規則をどう考えるか、最後は自分自身の問題なのです。そこで、後期は生徒会を中心に校則や校則にはなくても中学生としてふさわしい身なりや服装は何かなど、考えてもらいたいと思っています。皆さんの率直な意見を聞かせてください。

また、後期はハーモニーフェスタや志成集会に向かって仲間とともに自分やクラスを高める活動が待っています。みなさんの成長を楽しみに見守っていきたいと思います。